

棚田 ライテラス

第13号 1999.3.25
(季刊・年4回発行)

発行／全国棚田(千枚田)連絡協議会
編集／ふるきやらネットワーク
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-23-29-202
TEL 03-5389-9937 / FAX 03-5389-9983

岐阜県恵那市。田んぼの中にある石にペトログラフが刻まれている。



棚田パノラマ
体験展に寄せて
文化庁長官
林田 英樹

今年の夏に、全国棚田（千枚田）連絡協議会の主催で、「棚田パノラマ体験展」が東京で開かれるとのことです。子どもの頃に、自分も参加して作った農作物を収穫し、味わった体験は、私にとっては掛け替えのないものとなっています。都会の人達に、楽しみながら体験的に、棚田を好きになってもらえる機会になることを願って止みません。そのご成功を心からお祈り致します。

かつて観た、ふるさときやらばんの公演、「男のロマン女のフマン」の中に登場した棚田の光景は、本当に感動的なものでした。また、「棚田　ふるさとの千枚田」の写真集を出してみると、その美しさに目を奪われます。

しかし、実際に棚田を耕す苦労のことを考えると、生易しいことではないでしょう。私自身が高校までは田舎の村で育ち、農作業や山仕事をしたことがあるだけに、その大変さが想像できます。最近帰郷する度に聞く後継者難のことなどを考えると、なおさらです。

それだけに、近年、多くの方々の努力と協力によって、各地で様々な棚田の保全や活用の活動が広がってきていていることを、我が事の様に喜んでいるところです。

文化庁は、長野県更埴市の棚田地域を、はじめて文化財保護法の名勝「姨捨（田毎の月）」として指定することにしました。これが可能になったのも、更埴市、長野県や農林水産省等の協力があったからこそと有り難く思っております。この指定が、棚田に対する社会の関心を高めるために、少しでもお役に立てればと願っています。

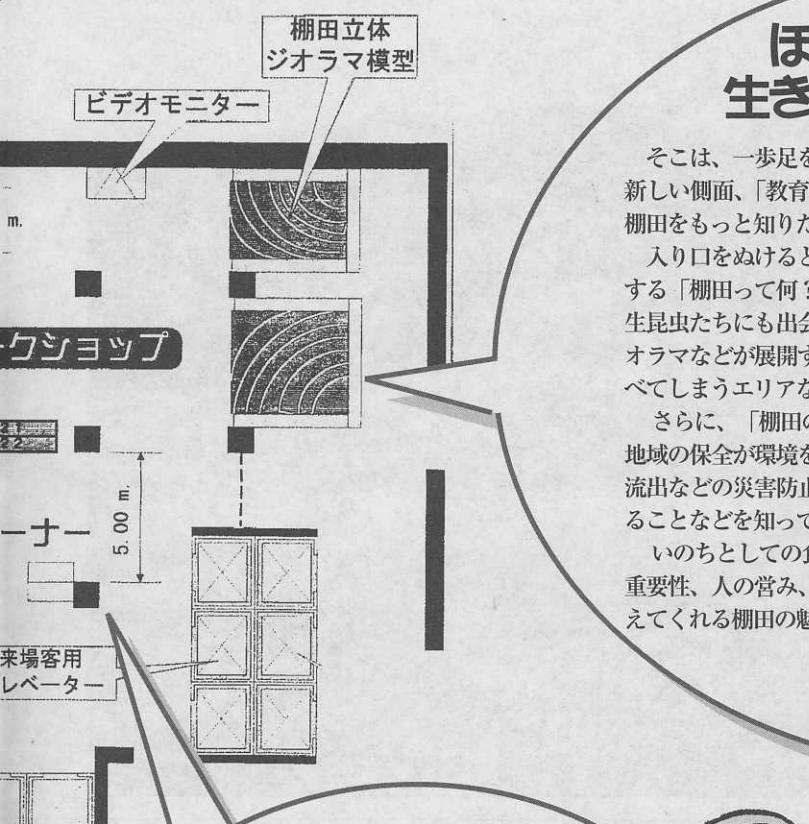
全国の棚田を有する自治体の皆さん、また全国棚田（千枚田）連絡協議会会員の皆さまの日々の努力と今回のイベント「棚田パノラマ体験展」に向けた積極的な活動に敬意を表します。それとともに、ふるさときやらばんの皆さん、劇団活動にとどまらず、日本のふるさとを守り、元気づける活動に精力的に取り組んでおられる姿には、本当に頭が下がる思いがしております。

きみは棚田を見たか！－

棚田パノラマ体験展が

1999年7月27日(火)～8月8日(日)日本橋三越本店にて開催されます!!

展示コーナー



ほんものの田んぼの生きものたちにも会える！

そこは、一步足を踏み入れると棚田のわくわくワールド。棚田の新しい側面、「教育の場」での活用をふんだんにアピールしながら、棚田をもっと知りたい人におすすめのエリアである。

入り口をぬけると、棚田の模型とともに、棚田の水の流れを理解する「棚田って何？」というプロローグにはじまり、ほんものの水生昆虫たちにも会える棚田の生きもの、農村の棚田の暮らしのジオラマなどが展開する。ここは、探検感覚でわくわくしながら、学べてしまうエリアなのだ。

さらに、「棚田の環境保全の役割」の実験などを行う予定。棚田地域の保全が環境を維持し、生態系を守り、地すべりや洪水、土砂流出などの災害防止、国土保全にきわめて重要な役割を果たしていることなどを知ってもらうのも目的だ。

いのちとしての食べもの、農業、豊かな生態系、環境問題、水の重要性、人の営み、生きざま、知恵、文化……など多くのことを教えてくれる棚田の魅力を見せる。

楽習エリア

棚田米販売のほか、 棚田へのアクセスは ここで！

このコーナーは、出展自治体の自慢の棚田米の計り売りや棚田米を使った酒などの加工品の販売、さらに、地域の特産品の販売コーナーである。

しかも出展自治体へのアクセス、オーナー制度など受け入れ体制、田植えや稲刈りツアなど、関連ツアの相談や紹介も行う。もちろん、案内パンフレットも配備する。

地域の農村体験ツアなどグリーンツーリズムの紹介をはじめ、棚田のある地域の魅力を積極的にアピールする場となる。各地域同士の交流やネットワークも強まるはず。

交流アクセスコーナー

現在、協議会事務局である長野県更埴市と4月から事務局を務める新潟県安塚町のスタッフ、企画制作を担当しているふるさとときやらばんスタッフが、さまざまな方面に掛け合い、また会議を重ねながら、この一大イベントを成功裡に納めようと奮闘中である。

会場の様子、各コーナーの内容などの案を紹介しよう。

今年、7月27日（火）～8月8日（日）に、東京にある日本橋三越本店7階にて「きみは棚田を見たか！」「棚田パノラマ体験展」を全国棚田（千枚田）連絡協議会主催で開催する。その詳しい内容は、まだプランニング中であるが、都会のど真ん中に、全国各地の棚田が出現することになる。

体感エリア

全国各地の棚田の大型写真パネルが出現！

「棚田パノラマ体験展」のメインは、なんといっても体感エリアである。日本各地の自慢の棚田の写真が大型パネルで展示される。

集落とともにある棚田、耕して天に至る石積みの棚田、夜景の海に面した棚田など、地域性に富んだ棚田風景が、写真の裏から光を当てる《コルトン》型式で、美しくダイナミックに再現される。そこは、まるで全国棚田街道のよう。そこには、地方独特の農機具も並べられ、また刈り取ったばかりのイネのはさが立ち並ぶ。そんなイメージでエリアづくりが進んでいる。

さらに、その先の壁面には棚田パノラマ写真と石垣の棚田が再現され、一時にして都会から農村へトリップした気分になれるかも……。

棚田を見たことがない人にも、農山村に行ったことがない人にも

棚田と出会ってもらい、農山村の魅力を知ってもらおうというねらいである。

メインエリア

棚田パノラマ体験展

会場レイアウト案

SCALE 1:200

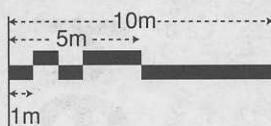
日本橋三越本店 7階催物会場

約1000m²展開案

DRAWN BY E. HARA

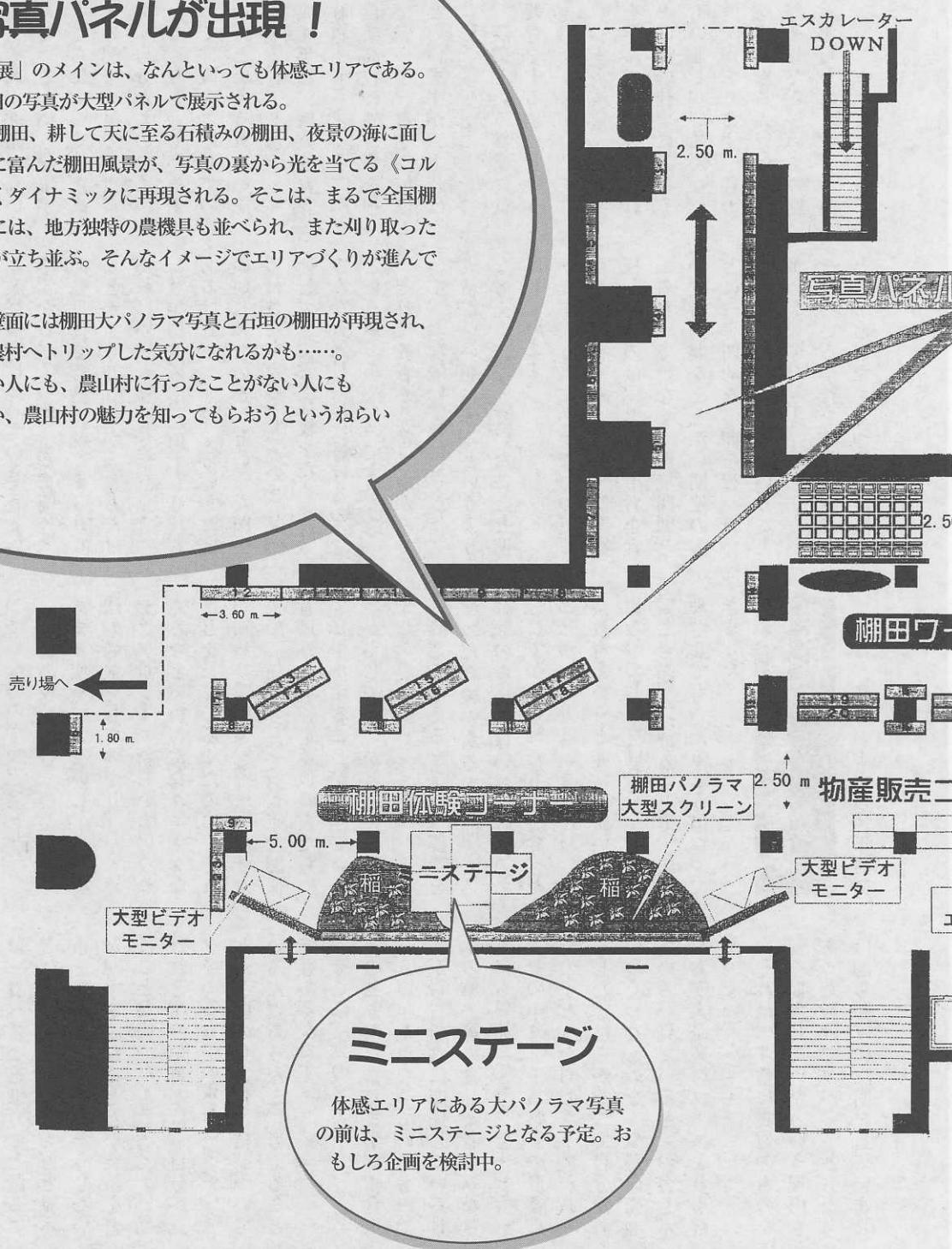
ふるさときやらん

1/27/1999



近頃、子どもたちと話をしてますか。
【子どもと話そう】全国キャンペーン

「棚田パノラマ体験展」は、文部省「子どもと話そうキャンペーン」に参加しています。



ミニステージ
体感エリアにある大パノラマ写真
の前は、ミニステージとなる予定。お
もしろ企画を検討中。

多くの視点から評価されるべき
棚田100力所を「選定委員会」
によって選定。(予定)

棚田100選の選定

田んぼをテーマにしたオリジナル
ミュージカルを「ふるさときや
らん」が創作、上演する。開催
日は、8/4~8/8。三越劇
場にて。親子券も発行。

田んぼミュージカル 公演

棚田フォトコンテスト
トII 「棚田60選」

棚田を通じた風景、歴史、労働、
暮らし、季節などがテーマ。メ
リットルネットワークTEL: 0
3・5389・9937

棚田についてもつと研究を深め
るため、新しく棚田学会を発足
させようと参加を呼びかけてい
る。その学術分野は、歴史、民
俗、地理的環境、また生態学、
経済学、農業土木学、農政学な
ど幅の広い研究者にわたる予
定。設立総会は、棚田パノラマ
体験展の開催期間中に会場にあ
る三越劇場で行つ。

棚田学会の発足

関連イベント紹介

「農」は「食」とつながつて、すべての人のテーマになつた

「食」つながることで、農業高校が活気づいた

校の米が、東京の米穀店に出荷されていて、それが非常に高い評価を受けているという記事が出来ました。さらに、つくつた高校生が、その記事を見て、東京に出てきて、自分たちのつくつた米を売ってくださっている米穀店を訪ねて、販売者としての意見を聞いたといううれしい記事も新聞で出ていました。

私は平成4年に、職業教育課長という仕事をしていまして、そこは、農業高校の教育等を担

専門高校といいますが、当時は職業高校といつたんです。つまり、農業という職業に就くための教育をする学校という非常にせまいイメージでした。けれども、いまの農業高校は、環境問題を学んでいる人もいれば、ペット関係の仕事に就こうという人もいるし、いろんなバリエーションがあります。昔の農業高校は、明らかに多すぎるわ

くすばらしい場所だということ
がわかつたのです。

農業高校がブランド商品を 生み出した

実は、私はいまから10年前に

は誇らしげに説明をしていまし

今まで農業という仕事に就きたくても、家が農業をやっていないと基本的に農業はできないう状態で、しかも産業の中心が第3次産業にシフトし、第1次産業従事者は減っていきました。ですから7年前、農業高校は、同じ世代で農業に就く1000人とか2000人が入れるだけあればいいといわれたのです。

「農業高校は全国に何100校もあるけれど、8校ぐらいあればいいじゃないか」といった国会議員さんもいらっしゃいました。そして、「農業高校をなくせば、みんな普通科高校に行けるのに」という声もあつたのです。

それは教育が非常にゆがんでいて、ただいい学校に行くため、成績がいい順に入るというような考え方になっていたことと関係しています。

だが、本当に必要ないのだろうかと調べてみると、農業高校というのは、農業従事者を育てるだけではなく、環境問題とか食料問題などと深い関連のもとに、専門的な学問を行つてい

を売つたり、加工していたり、おもしろいものをつくっていま
した。しかし、売つたとしても学校の中に無人の販売所があつて、近所の人が買う程度で、壺つていないのでふつうでした。

農業高校の場合、農薬などをあまり使っていないし、自然農法の勉強をしていたり、バイオテクノロジーで新しいものをつくるなど、いろんなユニークなことをしている。だのに、それが知られていないのは、「農」が「食」と連関されておらず、関係者以外の不特定多数の人たちにアピールすることができていなかからじやないかと思ははじめました。

も、生涯学習振興課にいたのですが、そのときに全国生涯学習フェスティバルというものをはじめました。その第1回目に千葉の幕張メッセで、生涯学習とは、食べること歌うこと踊ること何にでも関係するんだと見本市をやつたんです。そうしないと、本を読むこととか英語を習うことなどといったイメージになるけれど生涯学習とは、自分が食べているものの栄養は何だろう、どんな国の食文化と結びついいるんだろうなど、考えることもあるんです。

そこに、食のゾーンもつくり、そのときがたまたま学校給食100周年と重なっていたものですから、給食に関係している日本的第一線の食品業者のみなさんに参加してもらいました。その中に、千葉県立の農業高校の子どもたちのブースがありました。彼らがそこで自分たちがつくったものを一生懸命賣っている。見ていると、お客さんたちが大企業のブースよりも群がっているんです。

た。その時代は、普通科が一番で農業高校が低く見られていた時代ですから、とても印象的だったわけです。

そのことが頭にあって、職業教育課長に就いたとき、私は全國の農業高校の人たちに「子どもたちがつくっているものを売ろう。世間に出てこう。P R しよう」といいはじめました。ただ最初、抵抗があつて、「ものを売るために教育しているわけじゃない。教育の場でつくっているものだから、デパートで売るなどはなじまない」などと固いことをいう人もいました。

デパートで売ることによって、自分たちがつくっているものは、一流のデパートで通用するものなのか」また「みんなが喜んで買ってくれるものなのか」などを理解することに大きな意味があるんです。

そのうち、最初は反対していた農業高校の先生たちもイキイキしてくる子どもたちを見て、乗ってきました。いまでは日本中でヒット商品が次々と生まれてきています。

有名なのは、「鮭の中骨缶詰」です。これは岩手県の水産高校がつくったのですが、いままで

た。その時代は、普通科が一番で農業高校が低く見られていた時代ですから、とても印象的だったわけです。

そのことが頭にあって、職業教育課長に就いたとき、私は全國の農業高校の人たちに「子どもたちがつくっているものを売ろう。世間に出て」PRしよろう」といいはじめました。ただ最初、抵抗があって、「ものを売るために教育しているわけじゃない。教育の場でつくっているものだから、デパートで売るなどはなじまない」などと固いことをいう人もいました。

デパートで売ることによって、「自分たちがつくっているものは、一流のデパートで通用するもののなか」また「みんなが喜んで買ってくれるものなのなか」などを理解することに大きな意味があるんです。

そのうち、最初は反対していた農業高校の先生たちもイキイキしてくる子どもたちを見て、乗ってきました。いまでは日本でヒット商品が次々と生まれ

• 先行者 • 究竟 • 壓倒 • 超越 • 極限 •

た。その時代は、普通科が一番で農業高校が低く見られていた時代ですから、とても印象的だったわけです。

そのことが頭にあって、職業教育課長に就いたとき、私は全国の農業高校の人たちに「子どもたちがつくっているものを売ろう。世間に出て」PRしよう「う」といいはじめました。ただ最初、抵抗があつて、「ものを売るために教育しているわけじゃない。教育の場でつくっているものだから、デパートで売るなどはなじまない」などと固いことをいう人もいました。

デパートで売ることによって、自分たちがつくっているものは、一流のデパートで通用するものなのか」また「みんなが喜んで買ってくれるものなのか」などを理解することに大きな意味があるんです。

そのうち、最初は反対していた農業高校の先生たちもイキイキしてくる子どもたちを見て、乗ってきました。いまでは日本中でヒット商品が次々と生まれてきています。

有名なのは、「鮭の中骨缶詰」です。これは岩手県の水産高校がつくったのですが、いままで岩手県の水産高校

中華書局影印
宋史卷一百一十一

で捨てていた中骨を柔らかく煮て、カルシウムたっぷりの健康食品として売り出したわけです。いまは大企業がそのパテントを買って販売しています。

そのほか、福岡県立八女農業高校のメロンとマスカットは、

福岡天神の天満屋デパートに、「八女農業高校コーナー」ができて、自分たちで売っています。

さらに「食」と結びつけるだけではなく、消費者にアピールするため、全国農業高校ブランドコンテストを行いました。自分たちがつくったものに商標をつけ、どんなパッケージをつければ売れるのか考え、どうやって売られていくのかまで関心をもつていてこうというわけです。

ブランドコンテストで優勝したのが、鹿児島県立阿久根農業高校の「3年A組ブランド」でした。それは非常に洒落たデザインで、自分たちでつくった缶詰すべてに「3年A組のジャム」というブランド名をつけた。

高校生がつくったものだということが、一目でわかるすばらしいアイデアでした。

いまやこのブランドは、JR

九州の看板列車、福岡—鹿児島間をつなぐ「つばめ号」の中でも売られています。「つばめ号」も、ここでしか買えないものを売つていこうという戦略でしたからうまくマッチしたのです。

こうした中で、子どもたちが

農業に誇りをもつていてけるようになつてきました。しかも、家が農業をやつてなくとも農業高校に入りたいという子が増えてきました。いま、日本の農業高校は生まれ変わってています。

数字にも表れています。農業高校志望者は、年々減つていて一方だったのが、7~8年前から下げ止まりで、横這いになつた。これはすごいことで、かつて農業高校進学者の約9割が、「農業高校なんて入りたくないけど、偏差値でそこに行けつていわたから」という理由で進学していました。それがいまは、偏差値輪切りをしていませんから、入りたいと思って入つた子どもの数が圧倒的に増えてきているんです。

食料や環境問題ともつながって

食料や環境問題とも

農業高校の人気があがつてきなどというブランド名をつけた。高校生がつくったものだということが、一目でわかるすばらしいアイデアでした。

いまやこのブランドは、JR

農業高校でスピードコンテストというのがあります。かつて「農業は貧しくて暗い」というイメージがある。それを私は、明るくして1億円農家をつくりたい」という夢が圧倒的に多かったです。いまは「地球の環

境を私がなんとかするんだ」とか、「アフリカの飢餓や貧困を私がどうにかするんだ」という夢に変わつてきました。

農業が、農業経営というイメージから食料・環境にコミットしていくやりがいある職業という意識に変わつてきたんです。

さらに、平成5年から中学でも家庭科教育を男女必修にした

ことで、男の子たちも「食」に対する意識ができつていています。そして、すごく楽しみなのは、小学校に生活科の授業が平成4年から導入されていて、あと2年経つと、彼らが高校生になり、農業高校に入る子が増えるのではないかということです。

生活科の授業は、自分たちで作物をつくります。しかも食べられる作物が、すべての学校でつくられているわけです。いま、中学1年生以下の子どもは全員、トウモロコシをつくった経験があるわけです。むしろ、私のような者の方がない。

子どもと話すと、彼らにとてもつとも強烈なインパクトがあつたのは、「自分が育てたものを食べた!」ということなんでくと思われます。

農業高校でスピードコンテストというのがあります。かつて「農業は貧しくて暗い」というイメージがある。それを私は、明るくして1億円農家をつくりたい」という夢が圧倒的に多かったです。いまは「地球の環

やしない。毎年トウモロコシづくりはできない。学校は、ほかにも学ぶことが多いわけです。そこで次の課題は、学校のトウモロコシづくり、「農」に目覚めた子どもがもっとやりたいときにはどうしたらいいか。そこで文部省は、いま「全国子どもも農業プラン」というのを展開しています。

この中に、農水省とともに、子どもたちが自然に触れることができる「子ども長期自然体験村」や農道・水路を整備するだけでなく、子どもたちが生きものや自然に触れられるような「あぜ道せせらぎづくりプロジェクト」をはじめなど、子どもたちの自然体験や遊びの場をどんどんつくれていこうというわけです。

学校は基礎、基本を学ぶ場で、応用は地域で学べるのです。しかも自然体験の重要性は、だれもが認めるところです。文部省の調査でも、自然体験をした子どもほど道徳観が高まるというデータが出ています。時間はかかりますが、この子たちが社会に出てくるときが楽しみです。

21世紀、農業は花形産業になると信じたいですが、農業はわっていくと、また世の中も変わつてくるでしょうね。

21世紀、農業は花形産業になると信じたいですが、農業はわっていくと、また世の中も変わつてくるでしょうね。

21世紀、農業は花形産業になると信じたいですが、農業はわっていくと、また世の中も変わつてくるでしょうね。

21世紀、農業は花形産業になると信じたいですが、農業はわっていくと、また世の中も変わつてくるでしょうね。



文部省発行の「全国子どもプラン」のパンフレット

は、もう何年も自分の家族をはじめ、近所のみなさんを連れて、バス1台で秋田県の町に田植えや稲刈りに行くことを続けていらっしゃいます。そういう大人も増えてきているんですね。

いま農業高校では、農場に余裕がありますから、市民農園にして、地域の人たちに貸し出して、高校生が作物づくりを教えはじめています。これは子どもたちに自信を与えていて、その子どもたちが、農業従事者になつていくと、また世の中も変わつてくるでしょうね。

21世紀、農業は花形産業になると信じたいですが、農業はわっていくと、また世の中も変わつてくるでしょうね。

21世紀、農業は花形産業になると信じたいですが、農業はわっていくと、また世の中も変わつてくるでしょうね。

岡山県中央町

取材・文：石井里津子

大阪の米穀店とのつながりで生まれた棚田ブランド米

の交流など地域の活性化をはからうと模索しはじめていた。大坪和地区は、中央町の最西端にあり、役場から車で30分ほどかかる地区である。山と谷で構成され、大きな谷一帯に、棚田がぐるり360度つくられていて。そのすり鉢状に開かれた谷間の棚田面積は、約40haにも及ぶ。

この地区は現在、町の高齢化率27%に対し、45%と高齢化が進んでいる。さらに321戸のうち、約100戸ほどがお年寄りの一人暮らしだという。

過疎化や高齢化に対する危機感が、地区全体で「村おこし協議会」を結成させ、活性化事業に取り組ませた。

その活動は、棚田天然米づくりにはじまり、ふるさと宅配便、わら加工やこんにゃくづくり、さらに、ため池周辺への桜の植樹、文化祭や地区的運動会開催にも広がった。また、地元郷土史家を囲んでの文化財研究グループや村おこしの勉強会などにも力が入っている。

12年前、大阪中央区にある26軒の米穀店が集まってつくれた任意団体「ミナミ無農薬研究会」が、岡山県に大阪から日帰りができる環境の良い田んぼはないかと問い合わせたところ、県が、中央町の大坪和地区を紹介したことが発端だった。

そのころ、中央町の大坪和地区は、地区321全戸で「村おこし協議会」を結成し、都市とあつてある家族もあるという。

このツアーリーを機に、毎夏、地区内にある両山寺の奇祭、「護法祭」に訪れる人も多い。

ちなみにこの祭りは、天下太平、五穀豊穣を祈って、修行を行った護法実さんが、境内を駆け回るのだが、その護法実さんにつかまつた者は3年のいのちといい伝えられている摩訶不思議な祭りとして有名である。

「今摺米」の誕生、 物産センターの誕生、

ミナミ無農薬研究会との出会いで、棚田天然米「手づくり米」を売り出したJAくめぐんは、

平成7年、生産調整が続く農政の中、中山間地域の生き残りをかけて、さらに自分たちのブランド米「今摺米」を売り出した。

いま、年間1700俵を出荷する。コシヒカリで10kg4800円(税込)、キヌヒカリ10kg4000円(税込)と手頃な値段で

あるが、農家にとっては、自主流通米として正規ルートに卸すよりも手取りは増える。

棚田天然米という付加価値にとどまらず、脱穀・乾燥した米をもみの状態で保存し、出荷とともにみすりを行い、「いま、もみすりしたばかりの米」という

こと。物産センター組合長は、「米農家はね。田んぼは米をつくるところと思ってますから、ブドウつくるなんてトンデモナイつていうのが本音ですわ。なかなかみんな取り組んでくれないですよ」。

「わしは、ゲートボール人口が年間50万円の収入増になつてゐるという。物産センター組合長を4年務めた農家の鈴木年秋さん(64歳)は笑つて話す。

「棚田天然米をいぢ早く売り出した中央町においても、中山間地域の活性化をかけた挑戦は、まだまだ続きそうだ」。

できるのだそうだ。

「棚田は、治山治水をしている。転作には向きだと以前から訴えてきたんです。だのに、いま

までの農政の中、棚田は切り捨てられてきた。だから、中山間のあぜや取水口などが壊れた。川があふれ、家々も水につかつた。被害総額15億円。下流の津山市の災害はもつと大きかった」という。

「年寄りに聞いてもいままでで、一番ひどい大洪水でした。1時間20ミリで警報が鳴るのに、50平牧道夫さんは、その平易ではなかつた道のりを思い出すかのように、悔しそうに話をした。

その一方で、平成5年、町の物産センターができた。そうして、農家が取り組んでいる少量多品目栽培の野菜を売るルートが生まれたのである。スーパーにはない野菜を中心に、市価の7~8割の値段で売る。転作した畑から少しずつでも収入が増えた。

現在、平均すると1戸あたり、年間50万円の収入増になつてゐるという。物産センター組合長は、「わしは、ゲートボール人口が減つたとしかられるんですよ。みんな、野菜を出荷して儲かる方が、ゲートボールよりおもしろいんですね」。

中央町、人口約7500人、吉備高原に位置する。中央町の棚田は、北側の津山盆地と南側の岡山平野を守ってきた。昨年10月17日の台風10号による豪雨で、町内2000カ所以上の田地が荒れ、家々も水につかつた。被害総額15億円。下流の津山市の災害はもつと大きかった」という。



農林水産省で行われている 中山間地域対策の

新しい農業
基本法づくりの
中で、中山間地域
対策が取り上げられて
います。もっと
詳しく教えて
下さい。

検討について

農林水産省構造改善局
にお聞きしました。

いま、農林水産省では、農業基本法に基づく戦後の農政を国民全体の視点に立って、抜本的に見直しを行なって

これに合わせ、中山間地域等についても、下流域の都市住民

をはじめとした国民の生命・財産を守るという、いわば防波堤としての役割を果たしていると考え、耕作放棄の発生を防止し、このような公益的機能を確保す

るため、「直接支払制度」という農政史上初の制度を平成12年度から導入するため、具体的な検

討が始められています。

この導入に当たつては、都市サイドを含めた国民の理解が不可欠であり、これが得られる仕組みをつくることが大きな課題となつております。

Topics

鳥取県は全国初の県直営「棚田ファンクラブ」を設立し、「棚田保全ボランティア隊」を結成!!

鳥取県農林水産部農村整備課 中里良一

鳥取県は、過疎化の進展、農家の高齢化などから維持がむずかしくなっている中山間地域の棚田を守ろうと、平成10年9月に、全国初の県直営「棚田ファンクラブ」を設立し、棚田保全活動を本格的にスタートさせた。



棚田保全活動（1998/10/25 若桜町つく米・耕作放棄地の草刈り作業）

「棚田ファームクラブ」は、都市住民等いろいろな方に棚田の大切さを理解してもらうとともに、保全活動を支援してもらうことを目的として設立したもので、現在108人（県内66人、県外42人）の会員数となっている。

ティア隊」を若桜町つゝ米集落に派遣した。集落から「耕作放棄地を復元し、景観の改善と周辺農地への悪影響を解消したい」との支援要請を受けたものである。学生、会社員等40人(募集30人)の内13名が若い女性であつたことに驚かされた。

当日は、地元農家16人のほか、スタッフを含め総勢70人で草刈り作業し、汗を流した。地元の農家のとの交流会では、棚田での苦労話や草刈り作業の感想など、多くの会話が弾み、有意義なものとなつた。

さらに、本年3月14日（日）には、岩美町横尾地区といふところに、「棚田保全ボランティア隊」の派遣を行い、次々と活動を展開させていく。

県内外を問いませんので、「棚田ファンクラブ」に入会（会費無料）したい方、また、ファンクラブについてもっと知りたい方は、下記までお問い合わせください。

などを、ねらふからぬ。

④市町村も棚田保全に取り組み易くなる。

昨年10月25日（日）に、県として初めての「棚田保全ボラン

などな れぬじゆでしる

④市町村も棚田保全に取り組み易くなる。

「棚田ファンクラブ」事務局

(鳥取県庁農村整備課内 TEL 0857-26-7330)
なお、インターネットでも紹介しています。

アドレス (<http://www1.pref.tottori.jp/nousonseibi/hyoudai.htm>)

兵庫県で棚田フォーラムが、「農村と都市の連携による棚田保全」をテーマに開催される!!

第5回全国棚田(千枚田)サミット・ニュース

1999年9月18日(土)～19日(日)に開催日程決定!!

第5回全国棚田(千枚田)サミット開催地、三重県紀和町では、「みなさん田んぼのど真ん中に、どっぷりつかつてもらいたい」とサミットの内容を検討中だ。田んぼの中でいただく茶がゆに、流しそうめん、かかしコンクールなど土地のカラーを存分に出したサミットにしたいという。

近くには、瀬戸内海国立公園があり、その断崖絶壁の景色も見物だとか。開催日程は、9月18日(土)～19日(日)に決定した。黄金色に輝く稻穂の囲まれた山一面の棚田の風景を楽しみながら、棚田の未来について語り合えるサミットになりそうだ。いまからスケジュール調整を!!

さる3月14日、兵庫県神戸市神戸新聞松方ホールで、兵庫県が主催した「ひようごの棚田を考える」県民フォーラムが開かれた。会場には、県主催の「棚田交流人」の活動の様子も展示され、約400人が集まつた。

基調講演に三重県紀和町中浦敏夫町長を迎えて、パネルディスカッションでは、神戸新聞論説委員、前田篤良氏をコーディネーターに「農村と都市の連携による棚田保全」をテーマに2時間、充実した議論がなされた。

その内容は、パネリストである神戸大学教授の内田一徳氏を中心に、危機にある棚田を守る必

要性が語られ、またオーナー制度や教育の場への活用など、多方から棚田の活用が語られた。兵庫県の棚田への意識の高さを感じさせたフォーラムだった。



荒廃地の草刈り（加美町西山・轟地区）

INFORMATION

●大豆耕作団団員募集

熊本県水俣市にある愛林館で、

大豆耕作団を募集している。棚田40haに大豆を植えるのに、1

口4000円を出資しませんか、

というもの。配当として、どれ

た大豆もしくは、その大豆と同

価格相当の味噌やこづき豆腐、

大豆クッキーなどを提供してくれる。特典として、①種蒔祭、

草取り十枝豆パーティへの招

待。②収穫後、豆腐のつくり方

とおか料理教室への招待。③

味噌、こづき豆腐、大豆クッキ

ーづくりなどに参加してつくり

方を学べる。問：愛林館TEL09

66・69・0485

●棚田を語る展覧会

1999年4月21日(水)～4月25

日(日)、東京表参道・新潟館ネ

ースパスで、「棚田や農山村の重要

性を語りあい、美しい日本の風

景を守つていこう」と、棚田の

写真展や棚田にまつわるトーク

ライブが行われる。主催は、(財)

ニユーニーにいがた振興機構と田園

景観研究会。問：新潟県地域農

政推進課TEL025・285511(内線2904担当・倉本)

BOOKSほか

『日本の棚田』



中島峰広著
古今書院刊
定価：3200円(税別)

「棚田はいま」

—第4回全国棚田(千枚田)サミット報告書—

第4回棚田サミット報告書がで
きあがつた。読みものや資料とし
ても活用できるよう編集がなされ
ている。分価1000円(税込)

送料実費。問：新潟県安塚町TEL02559・2・2003

〔仮〕『棚田ワーケブック』出版決定!!

『棚田ワーケブック(仮)』が、
4月末、(社)農文協から出版さ
れる。イラストもたっぷり入り、
だれでもが棚田を理解し、棚田
の未来を考えられる1冊だ。
問：ふるさとやらばんTEL023381・6721

新しく会員になったみなさま

正会員＜団体＞

石川県 七尾市 石川県 内浦町

会員募集中

全国棚田(千枚田)連絡協議会

お申し込み・お問い合わせは、協議会事務局
長野県更埴市役所経済部農林課まで

長野県更埴市大字杭瀬下84番地

TEL 026・273・1111 FAX 026・273・1004

編集後記

あなたの地域で行う催しものへの募集、告知情報を寄せ
下さい。紙面で紹介していきます。次号の特集は、「棚田パノラマ体験展」に出展する自治体の紹介と全国棚田交流ガイド(仮
称)を予定しています。さまざまな地域の棚田を生かした交流
情報をお伝えしたいと思っています。みなさんからの情報をお
待ちしています。

私は、最近は「棚田パノラマ体験展」の「練習エリア」の構
想づくりのため、頭をひねっています。なかなかおもしろいこ
とができそうです。

石井里津子